

# どっこい生きてる！

## ぐんまの古墳

シリーズ・群馬の歴史資料を再定義するI

2026 7.11 | 土 |

定員 300名

※事前申し込みが必要です。  
(裏面参照)

参加費 500円 大学生以下無料

会場 群馬県立女子大学 講堂 13:00～16:00 (開場 12:30)

### 問題提起

13:05～13:20

古墳の二次的利用と二次的あり方の諸類型

群馬県立女子大学 教授 築瀬 大輔

### 第一部

講演 13:25～14:40

江戸の古墳学  
—歴史探究の変化と連続—

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 研究員  
竹内 祥一朗

民俗芸能継承の場としての古墳  
—群馬県藤岡市の事例—

藤岡市教育委員会文化財保護課 埋蔵文化財係長  
文挾 健太郎

“開かれた”古墳  
—横穴式石室の認識と再利用—

吉岡町教育委員会文化財センター 主事  
高橋 人夢

### 第二部

パネルディスカッション 15:00～16:00

「もうひとつの古墳文化」の資源把握から  
地域持続を展望する

パネリスト

竹内 祥一朗 / 文挾 健太郎 / 高橋 人夢

コーディネーター

築瀬 大輔

### 参加特典

本シンポジウムの記録集となる『地域学ブックレット  
群馬の歴史と文化遺産 Vol.19』(2027年度刊行予定)  
を、送料主催者負担のうえ贈呈します。

※配付方法は別途ご案内します。

### お申し込み

右記の二次元コードより、

2026(令和8)年

7月9日(木)までに

お申し込みください。



申し込みフォームは  
こちらから

### お問い合わせ

群馬県立女子大学事務局連携推進係 〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手 1395-1

電話: 0270-65-8511 (大学代表)

E-mail: gunmagaku-center21@mail.gpwu.ac.jp

受付時間 平日 9:00～12:00、13:00～17:00

大学ウェブサイト ▶



## 開催趣旨

全国有数の古墳密集地である群馬県は、「古代東国文化」の中心地として、古墳文化を発信し続ける古墳県である。ここでいう古墳とは4世紀から7世紀にかけて築造された、古代の王や豪族の墳墓のことである。では、考古学者はなぜ古墳を調査し、研究することができるのだろうか。それは、古代に築造された古墳の一定数がその後の時代において破壊されることなく、遺跡として保存されてきたからである。中には人知れず偶然残された古墳もあるが、それはむしろ例外で、古墳は地中に埋もれた遺跡とは異なり、マウンド状の遺構として生活の圏内で日常的に視認されながら残されてきた、「庭先の遺跡」である。

しかし、古墳は今日までの長い時間、必ずしも「古代の王の墓」として認知されてきたわけではない。本来とは異なる機能や意味を与えられて残されてきたものが実に多い。例えば、墳丘上に社殿や仏堂が祀られていることは珍しいことではなく、その場合、その古墳は観音山、稲荷山、薬師塚といった名前で呼ばれ、特別な場として大切にされてきた。あるいは、墳丘に薪炭林が造成され、肥料・燃料の供給地として用益・管理されているようなこともある。さらに、伝説や禁忌が付与されることで、禁足地として保存されてきた場合もあるだろう。こうしたことは古墳築造時の社会や文化、あるいは古墳本来の機能や築造意図とはまったく無関係なことであるが、地域社会の歴史にとっては重要な意味をもつ。それは、古墳が後世の人々や地域の生活・生業・信仰を成り立たせる景観要素として、「生かされ」ながら存在してきたからである。古墳には古代だけでなく、「古墳の中世」や「古墳の近世」という履歴があるのだ。

本シンポジウムはその点に注目し、古代の古墳を中世、近世、近代の歴史的・文化的景観を構成する遺跡、あるいは歴史資料として再定義しようとするものである。主に考古学が明らかにしてきた、古墳が築造された時代の社会や文化だけでなく、古墳が今日まで生かされながら残されてきた「その後の歴史」に関心を寄せることで、「古代東国文化」とは異なる、群馬の「もうひとつの古墳文化」を展望しようとするものである。

※本シンポジウムは、2020～23年度・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）「古墳に由来する文化的景観の総合的研究」（課題番号：20K0095 研究代表者：築瀬大輔）の成果の一部である。

## 講師プロフィール

### 竹内 祥一郎

Shoichiro Takeuchi

独立行政法人国立文化財機構  
奈良文化財研究所・研究員

1995年 群馬県高崎市生まれ  
京都府立大学大学院文学研究科史学専攻博士  
後期課程単位取得認定退学  
歴史地理学・文化的景観 修士（歴史学）  
2022年より現職。  
主要論文に「貝原益軒による藩撰地誌編纂と地理的知識の形成」（『人文地理』72（1）、2020年）、「近世から近代における古墳に関する歴史探究の変化と連続」（『遺跡学研究』18、2021年）、「大阪府中河内郡堅下村における高級葡萄生産の実現過程—明治期の篤農家の実践に着目して」（『人文地理』75（1）、2023年）、共著に「山の風景史—育成林業の文化的景観に関する報告書」（奈良文化財研究所、2024年）など。

### 文挾 健太郎

Kentaro Fubasami

藤岡市教育委員会文化財保護課  
埋蔵文化財係・係長

1983年 千葉県鎌ヶ谷市生まれ  
明治大学大学院文学研究科博士前期課程修了  
日本考古学 修士（史学）  
2010年藤岡市入庁。2025年より現職。  
論文に「子母口式土器成立前夜の地域性」（『千葉縄文研究』第9号、2019）、「群馬県藤岡市浄土院浄法寺（緑野寺）聖徳太子供養塔の基礎的研究—古代石製層塔の新事例—」（共著）（『日本考古学』第55号、2022）など  
著書に『聖徳太子供養塔発掘調査報告書』（共著）（緑野寺研究会、2026）  
岩宿フォーラム実行委員会委員、群馬県立歴史博物館資料調査員（2016～2018）

### 高橋 人夢

Tomu Takahashi

吉岡町教育委員会文化財センター・主事

1995年 群馬県渋川市生まれ  
群馬大学教育学部卒業、早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了  
日本古代史 修士（文学）  
やんば天明泥流ミュージアム学芸員を経て、2024年より現職。  
共著に『日本史のなかの群馬県』（山川出版社、2026年）、『川合』と「里沼」—利根川・渡良瀬川合流域の歴史像—（雄山閣、2024年）、『天明三年浅間山大噴火を語り継ぐ』（雄山閣、2024年）、『古代の交通と神々の景観—港・坂・道—』（八木書店、2023年）など。  
伊勢崎市史編さん調査員、群馬県地域文化研究協議会常任委員、群馬歴史資料継承ネットワーク（ぐんま史料ネット）運営委員

## 参加申し込み方法（事前予約が必要です）

定員 300名

次のいずれかの方法で、2026（令和8）年7月9日（木）までにお申し込みください。

### ① インターネット

大学ウェブサイトまたは右記二次元コードから参加申し込みフォームにアクセスし、氏名・住所・メールアドレス等を入力して参加者登録を行ってください。



申し込み  
フォームは  
こちらから▶

### ② メール

「第49回群馬学連続シンポジウムに参加希望」、「氏名」、「住所」、「電話番号」を明記して以下のアドレスまで送信してください。

E-mail : [gunmagaku-center21@mail.gpwu.ac.jp](mailto:gunmagaku-center21@mail.gpwu.ac.jp)  
(群馬県立女子大学事務局連携推進係あて)

### イベントメールリストに登録を！

インターネット、またはメールでお申し込みをされると、群馬学センターイベントメールリストに登録され、群馬県立女子大学や群馬学センター、または後援・協賛団体等が主催する講演会・シンポジウムなどの情報をいち早く受け取ることができます。この機会にぜひ、群馬学センターイベントメールリストにご登録ください。

### 書籍展示販売

会場にて、出演者著書、関連書籍の  
展示販売を行います。  
協力：戸田書店様名店



お問い合わせ

群馬県立女子大学事務局連携推進係 〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手 1395-1  
電話：0270-65-8511（大学代表） E-mail : [gunmagaku-center21@mail.gpwu.ac.jp](mailto:gunmagaku-center21@mail.gpwu.ac.jp)



▲大学ウェブサイト